

大迫力2000人超の合同演奏



パレード本番に向け動きや演奏を確認する生徒たち

五月四、五日に行われるパレードでは、中学生のメロリアルマーチングバンドが毎年、迫力の演奏で沿道の観客を魅了している。今年も、昨年と同じく、名古屋女子大学中高マーチングバンド部と、東邦高、名古屋市猪子石中、愛知県津島市藤浪中の各吹奏楽部の生徒計二百人以上が出演。いずれも演奏に動きを加えたマーチングに力を入れている学校だ。

マーチングバンドの中高生



「花は咲く」の演奏に合わせ歌声を響かせる生徒たち

器や打楽器の生徒が歌声も披露する。また、四部それぞれのパフォーマンズもあり、各校が持ち味を生かし、個性を見せる。両日とも午前十時半からタワースガーデンで開かれるウォーミングアップスナ

各校のパフォーマンスも

四月十五日、名古屋市千種区の猪子石中で合同練習があった。生徒たちは真剣な表情で動きや演奏を確認。先生からの指示の一つ一つに「ハイ」と短く答え、きびきびとした動きを見せていた。

スーザフォンを担当する猪子石中二年の菅原玲奈さんは「高校生たちの練習はなかなか経験できないので、すごく勉強になりました。足の運び方や音の出し方などを学びたい」と目を輝かせていた。



名古屋女子大高三年で、マーチングバンド部長の稲村安美さん。写真は、今回で五回目のパレード出演。「名古屋駅前を歩くのは特別な感じが有り、幸せな気分。お客さんが近く、声援もよく聞かえるので、楽しいし頑張ろうという気持ちになります」と振り返る。

車道を歩くのは特別